

授業科目	小児看護学概論		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	1学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの特徴を理解する。</li> <li>2. 子どもを取り巻く環境を理解する。</li> <li>3. 小児看護の機能的役割を理解する。</li> <li>4. 小児各期の特徴と成長・発達を理解する。</li> <li>5. 小児の保健医療の動向を学ぶ。</li> </ol>			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 ～ 6	12	子どもの成長・発達	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階の区分</li> <li>2. 成長・発達とは</li> </ol>
		小児各期の特徴と成長・発達	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児期</li> <li>2. 乳児期</li> <li>3. 幼児期</li> <li>4. 学童期</li> <li>5. 思春期</li> <li>6. 青年期</li> </ol>
		子どもの日常生活の援助	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの栄養</li> <li>2. 子どもの事故</li> </ol>
		小児看護の特徴と理念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護のめざすところ</li> <li>2. 小児看護の変遷</li> <li>3. 小児と家族の諸統計</li> <li>4. 小児看護における倫理と課題</li> </ol>
		子どもと家族を取り巻く社会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の特徴とアセスメント</li> <li>2. 小児をめぐる法律と施策</li> </ol>
7	2	発表	1. 子どもと家族を取り巻く社会 グループ発表
8	1	単位認定試験	
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
4. 参考書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会 育児書		
5. 成績評価方法	出席状況、授業態度（講義、グループワーク）、課題（提出状況、内容）、筆記試験		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	夏季休暇前に課題を出します。小児各期の特徴や成長・発達を学び、「成長・発達ノート」を作成し、今後の授業や臨地実習で活用していきましょう。		
7. 先輩学生からのメッセージ	小児各期の「成長・発達ノート」を作成するので、小児の特徴や成長・発達について学んでおきましょう。「成長・発達ノート」は今後の授業や臨地実習で活用していきます。		

授業科目	小児看護援助論Ⅰ（小児の看護技術）		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	2学年 前期
1. 科目のねらい・目標			
1. 子どもの健康障がいの特徴を理解し、健康障がい子どもと家族に及ぼす影響を理解する。 2. 子どもの疾患の経過に応じた看護について理解する。 3. 主な症状、検査、処置に伴う援助の方法を理解する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 ～ 6	12	健康障がいをもつ子どもと家族の看護	1. 病気・障がいを持つ子どもと家族の看護 2. 入院中の子どもと家族の看護 3. 外来における子どもと家族の看護 4. 子どもにおける疾病の経過と看護（急性期、慢性期、終末期、周手術期） 5. 症状を示す子どもの看護 6. 子どもの虐待と看護 7. 入院を必要とする子どもと家族のための遊びの援助 グループワーク 発表
7	2		8. 在宅療養中の子どもと家族の看護 9. 災害時の子どもと家族の看護
8 ～ 14	15	検査・処置をうける子どもの看護	1. 子どものアセスメント（身体測定、バイタルサイン） 2. 身体的アセスメント（課題） 3. 検体採取（採血、採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺） 4. 与薬（経口、点耳、点眼、点鼻、坐薬） 5. 吸入療法 6. 吸引 7. 酸素吸入療法 8. 注射 9. 抑制 10. 輸液管理 11. 演習（身体測定、バイタルサイン、コミュニケーション）
15	1	単位認定試験	
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院		
5. 成績評価方法	出席状況、授業態度（講義、演習）、演習時の身だしなみ、課題（提出状況、内容）、筆記試験		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	小児看護学概論で学習した各期の特徴を活かした看護技術の提供ができるように、モデル人形などを使用し演習をします。実習事前学習を作成し、講義内容を追加したものを臨地実習で活用していきましょう。		

授業科目	小児看護援助論Ⅱ（健康段階に応じた小児と家族の看護）		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	2学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 小児期にみられる主な健康障がいをもつ子どもの看護について理解する。 2. 子どもの特性をふまえた各健康段階に応じた援助の方法を主な疾患を通して理解する。 3. 症状、治療、処置に伴う援助の方法を理解する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 2 3	6	健康段階に応じた子どもと家族の看護 1	1. 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、髄膜炎の子ども看護 2. 1型糖尿病をもつ子ども看護 3. 白血病、脳腫瘍の子ども看護 4. 再生不良性貧血、出血傾向のある子ども看護 5. 気管支喘息、食物アレルギーの子ども看護
4 5	4	発表	1. 気管支喘息の子どもへの看護 グループ発表
6 7 8 9 10 11 12 13	16	健康段階に応じた子どもと家族の看護 2	1. 気管支炎、肺炎の子ども看護 2. 先天性心疾患、川崎病の子ども看護 3. 先天性股関節脱臼、先天性内反足の子ども看護 4. ネフローゼ症候群、腎炎の子ども看護 5. てんかん、脳性麻痺、進行性神経疾患の子ども看護 6. 口唇・口蓋裂、腸重積症、肥厚性幽門狭窄症、急性乳幼児下痢症、ヘルニアの子ども看護
14	2	新生児の看護	1. 低出生体重児、新生児黄疸、染色体異常の看護 2. 保育器の取り扱い
15	2	学習のまとめ 単位認定試験	
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院		
5. 成績評価方法	出席状況、授業態度（講義、グループワーク）、演習時の身だしなみ、課題（提出状況、内容）、筆記試験		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	各疾患の看護の「看護総論」は必ず予習をしてきてください。各疾患の病態の理解（復習）をし、授業に望みましょう。		

授業科目	小児看護援助論Ⅲ（看護過程）		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	2学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 小児の疾患をもつ人への看護過程の展開方法を習得する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	看護過程の展開	1. 看護過程の進め方 2. 事例説明 3. 疾患の理解、成長発達等の情報の整理、分析 グループワーク
2	2		1. 分析 グループワーク 2. プレゼンテーション グループワーク
3	2		1. 分析発表 2. 分析仕上げ グループワーク 3. 関連図 グループワーク
4	2		1. 関連図 グループワーク 2. 関連図 仕上げ
5	2		1. 関連図発表
6	2		1. 看護計画 グループワーク
7	2		1. 看護計画発表
8	1		1. 看護過程の流れ（まとめ）
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院		
4. 参考書	エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規		
5. 成績評価方法	出席状況、授業態度（講義、個人ワーク、グループワーク）、課題（提出状況、内容）、看護過程の評価表に基づいて評価します。		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	1年次にまとめた「成長・発達ノート」を使用します。個人ワークとグループワークで進めていきます。実際にイメージしながら、授業で学んだことを統合させ、看護の展開をしましょう。		